

自他の命を大切にするための教育をさらに進めていくために

～ 道徳地区公開講座で ALS 患者の方を招いての道徳の授業を行います～

1月の学校便りの巻頭言に載せる内容（抜粋）です。本校の大きなアクションの一つです。共通理解のほどよろしくお願いいたします。

本校の今年度の道徳地区公開講座の6年生の授業において、不治の病 ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者の方を招いての道徳の授業を行います。

ゲストティーチャーであるマカ（ペンネーム）氏についてご紹介をします。マカ氏は、自らが医療に従事をされている医療関係者の方です。ALSを発症した際に、医師から余命3年との宣告がありました。その後現在に至るまでに10数年ご存命でいらっしゃいます。これは、マカ氏が不治の病に冒される立場でありながら、常に前向きに生きておられるという「ポジティブな生き方」と大きく関係をしています。

現在、マカ氏は、東京都を始め他県などの小学校で「命の授業」のゲストティーチャーをされています。また、さまざまな教育関係者に対して講演会の講師をされています。マカ氏の生き方が表現された「どうぞ」という著書は、命の大切やポジティブな考え方にあふれ、多くの人の心を動かしています。

マカ氏の子供たちへの言葉かけは、いたってシンプルです。

「自分や他人の命を大切にしろ」「いじめは絶対にしてはいけない」「壁にぶつかっても負けないで乗り越えていこう」「人生前向きに生きていこう」

我々、教員や保護者の皆様もふだんから子供たちに教えている教育の「基本中の基本」です。しかし、全ての子供たちの心根に届いているかというとそうではありません。シンプルであっても難しい課題でもあります。しかし、明日の命もわからない難病の当事者であるマカ氏方の言葉は一つ一つに重みがあります。それを聞く子供たちも表情は真剣そのものです。

実際にマカ氏の授業を受けた子供たちには明らかな変容が見られます。

「マカさんの授業があつてから、今まで親任せであつたことを全部自分でやるようになりました」「ポジティブという言葉をよく口にするようになりました面倒なことにも前向きにやるようになりました」

マカ氏の支援団体である「NPO ポジティブ・フロム・ジャパン」から11月にマカ氏の著書「どうぞ」を15冊寄贈していただきました。大変ありがたいことです。現在、マカ氏を万全の体制でお迎えし最大限の教育的な効果を生むために、事務局のスタッフの方と幾度も打ち合わせを行いながら準備を進めています。6年生にも深い学びができるよう事前学習を進めています。卒業を控え希望と不安の入り交じったこの時期に、6年生には豊かな感性で多くのことを感じ取って欲しいと期待をしています。

本校は、「マカ氏の命の授業を受けた北西の卒業生は絶対に自殺をしない」を合い言葉にして、卒業に向けた「命の授業」として毎年、6年生にマカ氏の話を書く機会を設けていきたいと考えています。今回は、初めての取り組みであり、道徳地区公開講座に組み入れ全学年の保護者の方にも公開を予定しています。授業の後には30分ほど保護者や地域の皆様との意見交換会も予定しています。多くの方々の参観をお待ちしております。